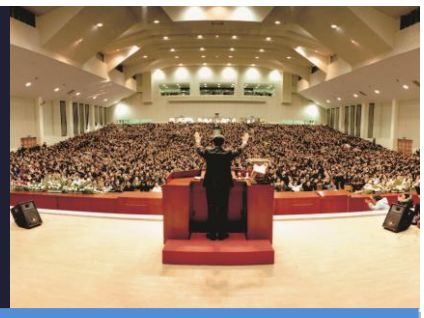
第 2019-28 号

恵みと真理のニュース



2019 年 07 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]

若い日に主の御心を分別して信仰と従順で行われるようにしてくださり、主のことに献身する喜びが溢れいるようにしてくださる神様の愛と恵みに感謝します

ハレルヤ！　青春の時に神様を畏れる信仰で生きるようにしてくださり、主のためどのように献身して使命を尽くそうとする愛の熱情を持って生きるようにしてくださる神様の恵みに感謝と賛美を捧げます。
私は今年、２５歳青年です。私は母をついて幼いごろから通いました。しかし、幼いごろの私はただ、母の手に導かれて教会に通い宿題をするように礼拝に参席した子供でした。中学校２年生が終わる頃、ドンタン新都市の内に美しくて大きい恵と真理教会が建てられ、スワン聖殿でドンタン聖殿で教会学校の教籍を移しました。すると中等部の総務先生が聖歌隊で奉仕するのを勧めました。私は信仰と才能が足りないと考えて断りましたが、先生は続けて勇気を与えて強く勧めました。そうするうちにある日、気づいたら礼拝の時間に私が聖歌隊席に座っていました。
しばらくは賛美を捧げる時間にただ口だけ開けるぐらいでした。先生の導きもだんだん実力が上がって知っている賛美曲が多くなりました、恥ずかしがりで、気が小さい性格なので小さい声で賛美しました。その時は一切の姉が聖歌隊で共に奉仕しましたが、様々な面で私と違いました。何よりも神様に対して堅固な信仰を持っていました。確信な信仰で大きい声で神様を賛美したので私が聞いても恵まれて感動されました。思い切り賛美しながら神様に栄光を捧げる姉の姿を見ながら恥ずかしさを感じました。また、一方で姉がうらやましかったです。私も熱くて純粋な愛で神様に礼拝して奉仕したかったです。切に神様を探し祈りました。“涸れた谷に鹿が水を求めるように／神よ、わたしの魂はあなたを求める。”（詩編４２：１）
聖歌隊の先生も私にいつも模範になる信仰を見せてくださいました。賛美をするときどんな心で神様の前に出てどんな態度で賛美するべきか親切に教え下さり、弱い私のため多く祈ってくださいました。私も喜ぶ心で大きい声で神様に賛美しながら栄光を捧げるようになりました。姉と聖歌隊の先生を通して刺激を受けながら神様の愛と恵みをもっと感じることが出来ました。
私の魂の救って下さり、いつどこでも共にしてくださる神様の恵みに感謝して１部礼拝の聖歌隊に続いて２部の礼拝の聖歌隊でも奉仕しました。礼拝を連続で捧げて説教の要旨を熱心にノートに書き写して御言葉を集中して聞きながら知らないうちに神霊な知識を知るようになり、神様に対する信仰も成長するようになりました。自ら賛美団体にも入って奉仕し始めました。そのように一日を教会で礼拝を捧げて夜になって家に帰りました。疲れもなくなり、大変だと思わなかったです。
学校の試験を控えているときも受験の日が近づいて来ても神様の恵みを愛して礼拝と奉仕を優先にする生活をつづけました。そんな私の進路を神様が開いてくださいました。私が考えもしなかった大学で進学するように摂理して下さり、以後、専攻科目に適用して満足しながらビジョンを持って熱心に勉強するように導いてくださいました。
青年になって青年奉仕宣教会の国内宣教に参与して献身する機会が与えられました。国内宣教を準備する機関の間もっと礼拝と祈りに力を尽くして御言葉を黙想しながら聖なる者となるように訓練を集中的で受けました。毎日御言葉を黙想して、互いのため祈って、平日礼拝も休まずに参席しました。この過程を通して私は私の信仰を顧みてただ主の喜びと神様に栄光を捧げる奉仕をしようと決心しました。
そして、聖徒において一番重要な奉仕は人の魂を主に導く伝道であることを悟りました。実際、国内宣教機関の間は私の能力でするのは一つもないと神様が私を用いてくださるのを恵みで体験しました。その後、毎年青年国内宣教に参与して神様がおられることや助けてくださることを体験してもっと成熟した信仰で幸せな信仰生活をするようになりました。
大学生活の初めは家計が大変になり私は学費を心配しました。“ わたしの神は、御自分の栄光の富に応じて、キリスト・イエスによって、あなたがたに必要なものをすべて満たしてくださいます。”（ フィリピの信徒への手紙４：１９）御言葉を信じて神様に祈りました。すると、神様は私を憐れんでくださって学費はもちろん生活費まで解決してくださいました。私に韓国奨学財団が与える国家の奨学金をもらうようにしてくださって、国の勤労奨学生で選ばれて生活費も解決することが出来るように導いてくださいました。また、神様が知恵を与えて下さり、熱心に助けてくださって成績奨学金ももらえることが出来ました。私が使う金を与えて下さり、悩んでいた様々な問題も解決して下さり道を開いてくださいました。
卒業を控えで就職を準備する間、就職難で私も心が不安な時が多かったです。不安で怖れる時は“なぜうなだれるのか、わたしの魂よ／なぜ呻くのか。神を待ち望め。わたしはなお、告白しよう／「御顔こそ、わたしの救い」と。わたしの神よ。　（詩編４２：１１）
御言葉を強く信じました。御言葉で慰められ祈りで私の将来を主の手に委ねました。ところが神様は学校を卒業もする前に職場を予備してそこに導いてくださいました。神様の恵みで私は企業体で栄養士として働くようになりました。そのように時によって恵みを与えて下さり私が行く道を開いてくださった天の父なる神様を導き手を考える時、限りない涙が出ます。
聖霊様が私の心を感動を与えてくださり、主のことに献身しようとする願いが思い出すようにしてくださり、神様が私の祈りに答えてくださって神様から用いられ神様の事を行うときに障害になる様々な状況を変化させて何よりも神様の事に優先するようにしてくださいます。現在、私は教会学校の小学部の教師と、青年奉仕宣教会の会長でエリフの聖歌隊の総務として奉仕しています。私にこのような大事な奉仕の職分をくださって楽しく主のことをしながら教会を仕えるようにしてくださる神様に感謝し賛美しながら神様にすべての栄光を捧げます。わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です。“フィリピの信徒への手紙４：１３）アーメン
神様を知らない前、神様に出会う前の私は想像もできないほど変化された今日の私の姿を私が考えても驚くことです。これから神様が私にどんな奇跡を行われるのか期待されます。いつも変わらなく私と共におられ、だすけて下さる神様だけ見上げ委ねながら常に神様に感謝しながら生きます。ハレルヤ！

[信仰コラム]　このようなお祈り（4）

＂こういうわけで，わたしはひざをかがめて，天上にあり地上にあって「父」と呼ばれているあらゆるものの源なる父に祈る...＂（エペソ人への手紙 1:17～19、3:14～19）

祈らないキリスト人はいません。しかし、祈ることが生活化されて、祈る時間が誠に楽しい聖徒になるまでは祈ることを学ぶ過程が必要です。聖書には信仰の偉人達がお祈りした内容と当時の状況に対して記録されています。これは私達に有益で良い見本になります。
使徒パウロのお祈りに対して調べてみます。
まず、エペソ人への手紙 1 章にある祈祷文を調べてみましょう。
わたしたちの主イエス･キリストの神，光栄の父が，知恵と啓示との霊をあなたがたに賜わって　神を認めさせるようとお祈りました。
イエスキリストによって罪人を救い、子に扱われる神様を知らないと神様を知ると言うことができません。このような知識は人が研究して観察して得られることではありません。聖霊様が知らせてくださらないと人がイエスキリストと父でおられる神様を知ることができません。
あなたがたの心の目を明らかにして下さるようにとお祈りました。不信者と信者の差は神霊なことに対する認識能力にあります。聖霊充満な聖徒とそうではない聖徒の間にも認識能力に差があります。使徒パウロがエペソ教会の教人達の心の目を明らかにしてくださるように求めたのは彼のダマスコでの体験から出たことでもあります。使徒パウロは心の目が明らかになると知るようになるのが何であるかを次のように列挙しました。
一、お呼びの望みを知ります。艱難が有益になるという望み、逼迫を受けることが福になるという望み、主のことに苦労すると将来キリストの審判台で賞を受けるという望み、死の瞬間に天国に行くという望み、肉親の復活に対する望みです。二、その業の光栄の豊かをしります。聖徒達に与えてくださった業は天に積んでおいた朽ちなくて汚れなくて衰えないことです。天国で永遠に享受する幸福です。三、施された能力の大きさを知ります。私達に施されたとても大きい能力はこの世を勝つ能力、サタンを対敵して退かす能力、逼迫と艱難と試しを勝つようにする能力です。ヘブライ書 11 章を見ると神様の能力を被って勝利した人々の話しが羅列されています。
次は、エペソ人への手紙 3 章にある祈祷文を調べてみます。
使徒パウロは父でおられる神様に膝を折ってお祈りしました。謙遜と懇切な心を表わす姿勢です。使徒パウロは神様の光栄の富にしたがい，御霊により，力をもってあなたがたの内なる人を 強くして下さるようにと祈るとしました。内なる人は霊的な自我を言います。イエスキリストを信じると内なる人が聖霊で新な生命を得て生まれ変わります。生まれ変わった内なる人は神様の思いと神様の光栄に従って判断して決定しようと励みます。内なる人が強いと艱難と逼迫と試しを十分に勝つことができます。
使徒パウロは信仰によって，キリストがあなたがたの心のうちに住ませるように祈るとしました。パウロがこのように祈ったのはキリストが臨んでおられるのを認識して感じる深さに差等があるからです。キリストが心におられるのを深く認識して感じると主の喜びと平安が心に満ちます。この世が与えることと異なる喜びと平安、この世が与えることができなく奪うことができない喜びと平安です。
使徒パウロはあなたがたが愛に根ざし愛を基として生活することにより，すべての聖徒と共に，　その広さ，長さ，高さ，深さを理解することができ，また人知をはるかに越えたキリストの愛を 知って，神に満ちているもののすべてをもって，あなたがたが満たされるように，と祈るとしました。キリスト人の信仰はキリストの愛の中に根ざして、基にすべきです。キリストの愛は全て測る道がありません。聖徒達が共に礼拝して共に伝道し、共に奉仕しながらキリストの愛を学んで体験するとより深くより豊かな愛の体験ができます。キリストの愛のため幸いで勇気を得て、楽しみにして、感激の涙を流すようになったことと比例して神様の満ちていることで満たされます。使徒パウロの祈祷文が皆さんに見本になり、その祈祷の内容が皆さんの体験になって証しになるように祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

洞 察 力

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

洞察力は、物事を明るく見通す能力です。表面に現われないの背後の実体をよく理解して確実に知っている能力です。今日の本文に**「信仰によって， わたしたちは， この 世界が 神の 言葉で 造られたのであり， したがって， 見えるものは 現れているものから 出てきたのでないことを， 悟るのである」**しました。アダム以後、人々はすべての物質の源を調べるために不断の努力をしました。
紀元前 5 世紀にエンペドクレスは、すべての物質が 土、空気、水、火、四つの元素から出てきたものとしました。しかし、科学が発展し、物質を構成する基本的な材料である元素が、それらよりも基本的なものであることが分かりました。科学がさらに発展し、元素を構成していることが原子であることを知るようになり、原子は原子核と電子になっており、原子核は陽子と中性子が結合されたということを知って来しました。**「信仰によって， わたしたちは， この 世界が 神の 言葉で 造られたのであり， したがって， 見えるものは 現れているものから 出てきたのでないことを， 悟るのである」**と明らかにした言葉が事実であることを人々が認識する範囲が大きくなっています。
ところで、人の運命に決定的に重要なことについては無知の人がたくさんいます。それは肉眼では見えない精神的な存在のためのものです。人の運命は、精神的な背後世界の洞察力にかかっています。ここでの洞察力はただ聖書を通して得ることができます。聖書は、神がおられることを明らかに啓示するとともに、サタンに対しても明らかに啓示しています。人が神を知らなければ、人生を無駄に生きるのです。そして、サタンの正体を知らなければ、一生をだまされる人生になります。
サタンがだまされるのは、その本性から出てくるものです。サタンは利用するのに適し対象を選択して使用します。創世記 3 章に見ると、蛇を使用してエバに近寄って欺く場面があります。蛇は女に頼む訊くことを「神は確かにあなたがたが園のすべての木の実を食べてはいけないとしましたか？」としました。一体成り立たない質問です。園のすべての木の実から食べないようにしたら、アダムとエバが餓死になります。なぜなら木の実がその食物だったからです。
「女はへびに 言った， 「わたしたちは 園の 木の 実を 食べることは 許されていますが， ただ 園の 中央にある 木の 実については， これを 取って 食べるな， これに 触れるな， 死んではいけないからと， 神は 言われました 」とエバが答えました。するとヘビがすぐに断定的に言う、 **「へびは 女に 言った， 「あなたがたは 決して 死ぬことはないでしょう 」**しました。そしてなお、言った **「それを 食べると， あなたがたの 目が 開け， 神のように 善悪を 知る 者となることを， 神は 知っておられるのです 」と**しました。ヘビが口外した最初の質問で欺きが明らかにもかかわらずエバはそれを洞察力を持っていませんでした。サタンのうそわなにかかると抜け出すことはできません。サタンの嘘がエバの脳裏に打ち込まれた。するとエバは行動に移ったのです。

サタンは、元の天使長ルシファーでした。彼は自分の美しさや能力に酔いしました。そして自分の心にいうのを**「あなたはさきに 心のうちに 言った， 『わたしは 天にのぼり， わたしの 王座を 高く 神の 星の 上におき， 北の 果なる 集會の 山に 座し， 雲のいただきにのぼり， いと 高き 者のようになろう 』．」（イザヤ書 14：13,14）**しました。それにより、神の御座がある天から空中空に追い出されました。サタンは、神の形状と形に造られた人が神から見捨てられるように、自分が抱いた思想を人々に植えました。神の御旨を背くと思う、神の言葉を歪曲する思想、理念、信仰はサタンから始まっていることを私たちは明らかに知っておくべきです。
サタンは教会を抹殺するために、マルクスとレーニンの心に共産主義思想を植え根付けかしました。マルクスは、労働者階級の革命を介してすべての国民が階級と貧富の差がなく、すべてが平等に豊かな社会主義国家を建設しなければならないとしました。結局、社会主義共産国家の体制を作り、維持するためには、個人の自由を剥奪しなければならないし、暴力と破壊で制御しなければならないでした。そして粛清という名の下に、罪のない命を殺し強制労働収容所に閉じ込められました。マルクスが打ち出した共産主義の最初の実験がロシアでした。レーニンの陣頭指揮の下、1917 年 10 月革命が起こり、世界初の共産主義国がロシアに建てられました。1924 年レーニンの死の後、その後を継いだスターリンは平等な社会を 建設するためには絶対的な共産党独裁が避けられないという政策を立て、これを反対する者を粛清し、2 千万人の以上を殺したり流刑に処しました。共産社会を通じて階級なく平等で、うまく生きる社会になるようにするという理論は、フィクションに過ぎないというのが年月がたつほど明らかに明らかになった。いよいよ 1985 年にソ連共産党書記長に就任したゴルバチョフが改革開放の政策を宣言しました。結局、ソ連共産主義は、70 年ぶりに終幕を告げるようになりました。
神を否定し、自由と人権を抹殺する思想と体制がどのよう凄惨て悲劇的なのかを知るのに支払った対価は、あまりにも大きなものでした。ソ連と中国が共産主義体制を維持しようと殺した人の数が 1 億人を超えました。ソ連と中国と北朝鮮は、その悲劇の歴史の実験の舞台でした。共産主義国家は、すべての経済崩壊、人権蹂躙、自由剥奪の道を歩きました。完全に理想的な社会とは、この世界では行うことができません。ただし、比較的最も良い社会は、自由民主主義、資本主義、市場経済と個人の幸福追求の権利を認める社会だというのが歴史の実験で証明されています。
洞察力がお粗末なマルクスの思想は、出発から間違っている。1）神の存在を否定し、人間の魂と精神を認めていない。2）科学技術の発展は、見過ごされたままの生産の関係を資本と労働のみ把握しました。3）共産革命を暴力革命で達成しようとしました。革命の主体勢力である農民、労働者は政治、経済、文化の知的能力とリーダーシップが不足しています。共産主義思想と体制のもとでは唯物論と無神論なので、その背後にはサタンがあります。このような事実を洞察力していなかったことが歴史的に大悲劇の原因でした。サタンが活動する究極的な目的は、教会を抹殺することです。したがって、共産主義体制は必ず教会を迫害して抹殺します。このような国と体制がよくなるはずがないです。

サタンは教会を抹殺するために、ポストモダニズムをこの世に蔓延にしています.

ポストモダニズムは「普遍的であり、絶対的な真理や定義はない。宗教や真理は相対的なものである。」という流れです。無原則の主観主義です。サタンはポストモダニズムがすべての分野に影響を与えるように作用しています。ポストモダニズムの影響で同性愛、同性愛者の結婚合法化が世界的な傾向となっています。
ポストモダニズム思想が教会に影響を与えて、宗教多元主義や、混雑主義や、包容主義や、宗教統合主義で教会の本質を脅かしています。宗教多元主義は救いの道がいろいろがあると言います。これを説明するために、 「山の頂上に登る道は様々だ。」という比喩を使用します。これは誤った言語遊戯で救いの道は登山の道とは何も関連性がありません。
宗教混合主義は、各宗教の神の概念、救い概念、罪の概念を収容して混合します。例えば、ヒンドゥー教の神の概念へキリスト教の神の概念を加えるのです。なるべく多くの神の助けを受けることがより良いと考えを持つようにします。
宗教包容主義は、イエス・キリストを信じる救いを得ると言いながらも、一方で、他の宗教は、福音的認識は、微弱ですが、神の恵みを受けたべきので排他するものではなく受け入れるという論理です.
背後で活動するサタンを知らなければ、敵の正体を知らずに戦う軍隊のようになります。エペソ人への手紙 に記録されることを**「最後に 言う． 主にあって， その 偉大な 力によって， 強くなりなさい． 悪魔の 策略に 対抗して 立ちうるために， 神の 武具で 身を 固めなさい． わたしたちの 戦いは， 血肉に 対するものではなく， もろもろの 支配と， 權威と， やみの 世の 主權者， また 天上にいる 悪の 靈に 対する 戦いである． 」（エペソ人への手紙 6：10～12）**しました。
悪魔（サタン）は、偽りの父です。悪魔の主な武器は嘘をつくことです。悪魔の嘘は、その本性から出てきたのです。したがって、人々をだまして自分の利益を図るものは、トリックで権力を勝ち取って維持する者たち、このような仕事をしながら堂々と行動する者は、サタンの手先です。悪魔から出てくると思う、思想、理念は、聖書で分別すると偽りであるのを明らかに知ります。真のクリスチャンは、聖書を信仰と行為の基準と原則的に視るので、悪魔的な虚偽の行為をする者を追従しません。かばっていません。そのような人の側に加担しません。

愛する皆さんはすべてのことを真理の言葉である聖書で判断してください。真理の霊である聖霊の導きを常に受けてください。そして聖徒としての洞察力を持って判断して選択して生きてください。